

# 鈴田の風



大村市立鈴田小学校 学校だより  
令和6年度第15号(R6.11.11)  
文責:校長 牛嶋 理孝

## 家庭学習は必要か

子供たちは学校で毎日学習しています。家に帰ってまで学習をする必要があるのでしょうか。

結論から述べると、わたしは家庭学習は必要だと考えています。

「分かること」と「できること」は違うというのが第一の理由です。例えば「自転車に乗る」ということで考えると、自転車の乗り方についての詳しくて分かりやすい本を読んだり、話を聞いたりすれば、子供たちは自転車の乗り方については理解できるかもしれませんが、しかし、「乗れる」ようにはならないでしょう。乗れるようになるためには、乗り方が分かっただけではだめです。何回も転びながら、自分で繰り返し練習しなければ、決して自転車に乗れるようにはなりません。

それと同じで、どんなにわり算の計算の仕方が分かって、自分でわり算ができるということとはまた別話です。教師の説明を聞いても、友達が解いているのを見ても、決してわり算ができるようにはなりません。「できる」ようになるためには、自分が動かなくてはなりません。

文章がすらすらと読める、漢字が書ける、計算ができる。これらはすべて技能です。技能と呼ばれるものは習熟の段階を経て身に付きます。理解するだけではだめなのです。もちろん、学校でも習熟させるための時間はとっています。しかしながら、全ての子供が完全に習熟するだけの時間をとることは、正直困難です。一人一人、個人差があるからです。

第二の理由は、机に向かう習慣を付けるということです。先に技能を習得させるためには習熟が必要だと書きましたが、学年が進み、学習内容が高度になるにしたがって、習熟に必要な時間は長くなります。中学生に必要な家庭学習の目安は2時間だと言われています。かなり長時間の家庭学習が要求されます。

ジョギングを例にとります。ふだん何も走っていない人が「今日から毎日10kmずつ走りなさい」と言われてもおそらく走ることはできません。最初は1km、そして3km、やがて5kmと距離を伸ばしていき、やっと毎日10kmが走れるようになります。

小学校のときに家庭でまったく学習していなかった子供に、中学校に入ってから急に、「今日から2時間学習しなさい」と言っても、できるわけがありません。習慣というのは毎日の地道な継続によってのみ、身に付くものです。

では小学生の子供は、いったいどのくらいの家庭学習をすればよいのでしょうか。本校では家庭学習の目標時間を「学年×10分+10分」としていません。6年生なら70分です。社会体育やその他の習い事等で疲れている子供たちには、かなり長い時間を感じるかもしれません。しかし、決まった時間に決まった場所で机に向かう習慣を身に付けてほしいのです。

以下の文章をお読みください。

いかなる学習にとっても、大切なことは二点である。第一は「丁寧さ」である。第二は「持続性」である。

これ以外の条件は（例えば知能が少々よいということなど）どうでもいいことである。強いていえば、他人の忠告を受け入れる「素直さ」があった方がいいが、上記の二条件を満たす子は、ほとんど「素直」であるからそれを入れることもない。

これらを育てるためには、腰を据えてかかっても最低1年間が必要である。そして、小学校中学年が絶好のチャンス。小学校高学年は、ほとんど最後のチャンスである。

「家庭教育の指針」明治図書から抜粋

まずは、机の前に座る習慣を身に付けることです。

## 11月中旬～12月の主な行事予定

11月15日(金) 授業参観・学級PTA  
学校保健委員会

17日(日) 玖島中学校区PTA研修会

23日(土) PTA環境整備作業

29日(金) 鈴田小学校研究発表会

12月 5日(木) 人権集会

12/5～12/16 短縮日課 (14:00下校)

24日(火) 2学期終業式

12/25～1/7 冬休み

